

平成29年度 清原南小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重を基盤に，知・徳・体の調和のとれたたくましい児童の育成を目指し，日本の伝統や文化を大切に，平和な国家の形成者として，21世紀を担う心身ともに健康で心豊かな子どもを育成する。

たくましい子	元気に運動し，健康でたくましい心と体をつくる。
思いやりのある子	ルールやマナーを守り，協力して生活する。
よく学ぶ子	基礎・基本を身に付け，進んで学習する。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

恵まれた自然環境と，141年の長い歴史と伝統を有する本校に勤務することに誇りと責任をもち，子どもへの愛と同僚との和をもって児童・保護者・地域の方々と共に歩み，自らの資質を高め，教育目標達成のために全力を尽くす。

また，先人に感謝しつつ，母校への誇りと自分の尊厳を高めるような教育活動を展開し，子どもたちに「未来を拓く人間力」を身に付けるため，児童・教職員・保護者・地域が連携し「地域に開かれた信頼される学校づくり」・「清原地域学校園小中一貫教育」を推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 地域に開かれた信頼される学校づくりの推進
- (2) ○清原地域学校園構想に基づいた小中一貫教育の充実
- (3) 高い指導力と情熱をもった教職員の人材育成
- (4) 基礎学力の充実
- (5) ○言語力や読解力の育成
- (6) 教育的ニーズのある児童への指導体制の整備
- (7) ○社会性の醸成
- (8) ○健康や体力の増強・食育の推進
- (9) 家庭や地域との連携の強化

〔清原地域学校園教育ビジョン〕

自己を見つめ，自己のよさを生かした夢の実現に向けて，主体的に取り組む児童生徒の育成
～キャリア教育（生き方）を核として～

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】・清原地区地域学校園構想としての取組を充実させ，子どもたちの「生きる力」を育み，職員間の連携を深める。

【学 習 指 導】○基礎的・基本的な学習内容の定着化を図り，更に学び合いを通して自ら学び考える児童の育成を図る。

【児 童 生 徒 指 導】○あいさつ運動を始め，児童間のコミュニケーション能力を高める活動を通して，自分で判断し行動する児童の育成に努める。

【健康（体力・保健・食・安全）】○楽しく体力づくりができる環境や健康について学ぶ機会を充実させ，自らの健康や体力づくりに積極的に取り組む子の育成に努める。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は今の学校が好きです。」 児童肯定的回答 80%以上	教職員は子どもの悩みを把握し、効果的に教育相談を実施したり、活気ある活動を充実したりする。 1 教育相談の充実及びQ—Uテストの活用により、児童同士の人間関係づくりに努力する。 2 学校行事や児童会活動・委員会活動を工夫し、学校生活に潤いを与える。	B	【達成状況】児童肯定的回答 92.9% ・1では、Q Uの結果を受け、円滑な児童の人間関係を構築するために職員研修を実施し、教育相談に生かした。 ・2では、委員会活動の内容をそれぞれ話し合い、工夫することで活動を充実させることができた。 【次年度の方針】 ・1では、教育相談などを継続して行い、よりよい人間関係の構築に努める。 ・2では、引き続き、あいさつ運動や縦割り班など、児童主体の活動を推進する。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生は、大切なことを熱心に指導してくれる」 児童肯定的回答 80%以上	教職員は児童が自己充実感をもって学校生活が送れるよう教育活動を工夫する。 1 学習内容定着度調査の結果をもとに、本時のねらいを児童に分かるように提示し、個に応じた指導と学び合いのある分かる授業を目指す。 2 積極的・組織的な児童指導を充実し、規範意識を高める。	B	【達成状況】児童肯定的回答 98.8% ・1では、本時の「ねらい」や「振り返り」を提示し実践することで、授業の見通しが分かる授業を展開することができた。 ・2では、学習や生活での基本的な決まりが身に付くよう、普段から積極的な児童指導に重点を置き、規範意識が高められた。 【次年度の方針】 ・1では、学習内容やねらいを学年内で互いに確認したり、板書計画や学習形態を工夫したりしていく。 ・2では、教育活動全般における規範意識を高め、発達段階を考慮した上で一貫した指導が行えるよう共通理解を図っていく。
	A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業と生活のきまりやマナーを守って生活している。」 児童肯定的回答 80%以上	児童情報交換会を活用して全職員が共通の認識をもちながら、さまざまな場で子どもにかかわり、それを児童情報交換会で報告する。 1 <u>「清原地域学校園の方針・約束・一日」を積極的に活用する。</u> 2 下校集合時にきまりやマナー、安全面について話をする。	B	【達成状況】児童肯定的回答 87.2% ・1では、「清原っ子の約束」を、各教室に掲示し、年度始めに児童に周知すると共に、日常的な指導に役立てた。 ・2では、学年下校や集団下校の際に、全職員で天候や安全面の状況に応じた全体指導を行った。 ・3では、生活目標を具体的に設定し、その反省をもとに次週の生活目標を示すことにより、児童への意識付けが図られた。 【次年度の方針】 ・1では、次年度は「清原っ子の約束」を全児童に配付し、家庭にも周知を図っていく。 ・2では、全体指導を継続して行うと共に地区担当者が個別に指導する時間を設ける。 ・3では、各学級での反省の結果を全職員が共有できるようにする。

A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 児童肯定的回答 80%以上	机間指導を行い、一人一人の学習状況を見取り支援するとともに、友達同士学び合う場を設定した授業を行う。 1 習熟度別学習等、個に応じた指導と学び合いの場面を設定する。 2 児童の振り返りの場を設定し授業改善に役立てる。	【達成状況】児童肯定的回答 97.3% ・1では、個に応じた対応と集団の特性を効果的に生かす学習形態の工夫をし、計画的、継続的に指導にあたってきた。 ・2では、「めあて」「課題」の明確化と、「振り返り」における児童の学びの実感、自覚を促す工夫をしてきた。 【次年度の方針】 ・1の習熟度別学習においては、児童が自分に合ったコース選択をし、効果的な学習ができるように適切な支援を行うとともに、引き続き、少人数、T・T、VTの活用を授業に取り入れ、子どもの声に応える丁寧な指導に努める。 ・2では、「振り返り」がその後の学習につながるよう、ノート等にしっかりとまとめることを指導するとともに、学びの成果が連続するような教材や資料の提示を工夫する。 ・教職員・児童と保護者の肯定的回答率に12ポイント以上の差が生じた。学力向上に向けた取組について、学年通信や懇談などで保護者に発信しながら、学校での学習内容を保護者も確認できるようにする。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 児童肯定的回答 80%以上	いじめの未然防止、早期発見及び早期解消のため、児童理解に努め、信頼関係を築く。 1 年2回の「いじめゼロ強調月間」では、関連する道徳の授業を実施する。 2 日頃より児童の様子を観察するとともに、学級活動及び日常生活の中でいじめは許されない行為であることを継続的に指導する。	【達成状況】児童肯定的回答 98.5% ・1では、児童会を中心とした集会活動やいじめゼロスローガンの募集などを行うことで、いじめに対する児童の意識を高めることができた。 ・2では、言葉遣いに関する学級活動を各クラスで実施するとともに、いじめアンケートやハートタイムを実施するとともに、いじめの早期発見に努めた。 【次年度の方針】 ・1、2では、いじめアンケートやいじめゼロ強調月間を引き続き実施し、児童会によるいじめ根絶集会やいじめに関する道徳の授業等を継続して行い、いじめは許されない行為であるという意識を高めていくとともに、いじめに繋がる場面で立ち向かえる心を育てていきたい。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケートの「学校の日課、授業、行事等は適切に実施されている。」 保護者肯定的回答 80%以上	時数管理を適切に行い授業にじっくりと取り組める環境を生み出す。 1 授業時数を確保し予備時数を有効的に活用する。 2 土曜授業の趣旨を踏まえ、教育活動の充実に努める。	【達成状況】保護者肯定的回答 97.5% ・1では、創意工夫により授業時数が確保できた。予備時数も学習の振り返りや定着に活用できた。 ・2では、地域や保護者との連携を図り、児童会活動や引き渡し訓練、持久走大会等、充実した教育活動を行った。 【次年度の方針】 ・1では、適切な時数の確保と日課の工夫によって、より充実した教育ができるようにする。 ・2では、土曜授業の趣旨や本校の特色を踏まえ、計画的に年2回土曜授業を実施する。

A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は学校だよりや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している。」 保護者肯定的回答 80%以上	学校だよりや各種通信、ホームページを通して定期的に情報を発信する。 1 学校公開を積極的に行う。 授業参観 学校公開日 土曜授業 運動会 清南持久走大会 音楽集会・委員会活動発表 清南まつり 他	【達成状況】保護者肯定的回答 95.3% ・1では、定期的に学校公開日や主な学校行事等を保護者や地域住民に知らせるなど、情報発信を積極的に行った。また、地域協議会の方にも授業参観や会食、清南まつり等の行事に参加してもらい、学校の様子を伝えられた。 【次年度の方針】 ・1では、各種たよりやホームページの内容をさらに充実させる。また、学習だよりや児童指導だよりも定期的に発行するとともに学年だよりの「清南スマイル」コーナーを充実させていく。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 保護者肯定的回答 80%以上	学習ボランティアや企業と積極的に連携を図った教育活動を行う。 1 学習ボランティアを計画的に導入し、授業への参画を図る。 2 地域協議会や清原地域学校園と<u>連携を図り、外部人材の活用を推進する。</u>	【達成状況】保護者肯定的回答 95.6% ・1では、計画的に家庭、地域、企業等と連携を図り、教育活動の充実に努められた。 ・2では、コーディネーターを介して家庭科のミシンや水泳指導時の見守り等に活用が図られた。 【次年度の方針】 ・1では、活用する団体や人材の精選を図り、授業への参画を推進していく。 ・2では、学校支援ボランティア年間活用計画の更なる充実を図る。また、新たな人材の発掘も進めていく。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は清掃がしっかり行われ、学習しやすい。」 児童肯定的回答 80%以上	環境の美化に努める。 1 日々の清掃活動について振り返るとともに、学級活動の中で清掃の仕方や心構えを身に付ける。 2 学校支援ボランティアの協力を得ながら、季節に応じた潤いのある環境を整備する。	【達成状況】児童肯定的回答 88.9% ・1では、清掃活動中に清掃の仕方や心構えについて理解させ、清掃に取り組ませることができた。 ・2では、掲示係や掲示委員会を中心に、掲示計画を立て、環境を整備することができた。 【次年度の方針】 ・1では、身支度や清掃用具の使い方など、清掃の仕方について共通理解のもと、徹底を図るようにする。 ・2では、掲示係を中心に掲示計画を立て、潤いのある環境づくりに努める。
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 児童・保護者肯定的回答 80%以上	学校園全体研修会や各部会等で研修に努め、充実した取組を行う。 1 中学校教員の6年生に対する乗入授業を通して、中学校の学習に対する明るい展望がもてるようにする。 2 学校園あいさつ運動により、中学生との交流を図り、コミュニケーション力を高めるようにする。	【達成状況】児童肯定的回答 92.7% 保護者肯定的回答 86.5% ・1では、中学校の教員が6教科にわたり計画的に乗り入れ授業を実施し、回を重ねるごとに学習に対して明るい展望がもてるようになった。 ・2では、学校園あいさつ運動を年に3回実施し、中学生とのコミュニケーションを図ることができた。 【次年度の方針】 ・1では、学校園内で他の行事との日程調整を図り、分かりやすく意欲がもてる学習内容の改善を図っていく。 ・2では、年3回のあいさつ運動を継続し、より一層の中学生との交流を深めていく。

教育活動の状況	生 活	B 1 教師の授業力を高めるため、互いに授業を公開し、教師としての資質・能力の向上に努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、校内研修を通して学び合い、自らの指導に生かしている。」 教職員肯定的回答 80%以上	全職員が授業を公開し、授業研究を行う。 1 考えを深め合える授業研究会を目指した校内研修を行う。 2 話し合いの場を通して、同僚性を高める。 3 地域の学校と連携を図り、研修を一層活性化する。	B	【達成状況】教職員肯定的回答 88% ・ 1 では、学校課題に向け、全学年による授業の提案がなされた。学習指導に携わる全職員が授業を実践・公開し、教材研究や授業の検証・改善を行った。 ・ 2 では、指導案検討会・授業研究会を主とした協議を行い、授業作りの方向性の共有を図った。 ・ 3 では、地域学校園内での授業参観を通し、学習指導・児童指導における系統性を確認し合った。 【次年度の方針】 ・ 1, 2 では、新学習指導要領への移行をふまえ、主務者を中心に各教科、領域に関する研修を充実させるようにする。また、教科担任を取り入れた授業、専門性を生かした授業実践なども検討する。 ・ 3 では、引き続き、地域学校園での連携を図りながら進める。
		A11 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は時と場に応じたあいさつをしている。」 児童肯定的回答 80%以上	元気にあいさつし、場に応じた言葉遣いを指導する。 1 年に2回、児童会主催のあいさつ運動を実施し、家庭や地域と運動推進の呼びかけを行い、意識を高める。 2 あいさつの習慣化を図るためPTAと児童会が協力し、標語を募集し作品の表彰や掲示を行う。	B	【達成状況】児童肯定的回答 94.1% ・ 1 では、年に2回のあいさつ運動で、地域学校園と連携し、中学生とあいさつ運動を行うことができた。 ・ 2 では、児童会であいさつの習慣化を図るためのポスターを掲示することで、児童の意識が高まった。 【次年度の方針】 ・ 1 では、継続して来年度も地域学校園との連携を図り、より児童の意識を高めていきたい。 ・ 2 では、あいさつポスターを児童会で作成し、掲示することで、来年度もあいさつへの意識付けを図っていきたい。
		A12 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は時と場に応じた正しい言葉づかいをしている。」 児童・教職員肯定的回答 80%以上	学校や地域が一体となって場に応じた言葉遣いを指導する。 1 VT を活用した授業を取り入れ、場所や相手に応じて正しい言葉遣いができるよう啓発していく。 2 時と場に応じた話し方について全職員が共通理解を図り、正しい言葉遣いを指導する。	B	【達成状況】児童肯定的回答 86.0% 教職員肯定的回答 96.2% ・ 1 では、VT を積極的に活用し、地域の人と関わる機会をもたせ、適切な言葉遣いができるよう取り組んだ。 ・ 2 では、言葉遣いについて、学校生活全体を通して、随時指導に努めた。 【次年度の方針】 ・ 1 では、地域の方々と関わる機会を今後もより多く設けていく。 ・ 2 では、異学年交流の機会を取り入れることを大切にする中で、他の教室に入るときの挨拶の仕方や縦割り清掃の際などの言葉遣いを意識して使えるよう指導していく。また、各学級では授業を通して、話し合い方などを学んでいけるようにする。

	B 2 全職員が子どもの人権を尊重し、法令を遵守しながら職務を遂行している。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は子どもの人権を尊重し、法令を遵守しながら職務を遂行している。」保護者肯定的回答 80%以上	すべての教育において子どもの人権を尊重した活動を行う。 1 教師自らが言語環境を整える。 2 人権週間に環境を工夫したり、人権に関する授業を実践したりして、人権意識を高める。	B 【達成状況】保護者肯定的回答 93.2% ・1では、教師の言葉遣いや行動が児童に影響を与えることを一人一人が自覚した上で、児童の模範となるような行動をするよう心掛けた。 ・2では、12月の人権週間に全学級でDVDを視聴し、人権意識を高める材料とした。さらに、人権教育に焦点を当てた授業を実践した。 【次年度の方針】 ・1では、次年度も児童の手本となるような言葉遣いに努めていく。特に、児童の呼称や指導の際には、十分に配慮していく。 ・2では、人権週間に限らず、日常の児童への指導を通して、教師自身の人権意識を高めていくようにする。 ・3では、朝の会や学級活動などで、児童の人間関係作りに役立てるために、アイスブレイキングなどを取り入れる。
健康・体力	A 13 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は休み時間や放課後などに進んで運動している。」児童肯定的回答 80%以上	進んで運動ができるよう目標や行事を設定する。 1 持久走大会や鉄棒・水泳・縄跳び検定等で自ら目標をもって練習を重ねることができるよう教師のサポート体制を構築する。 2 「うつのみや元気っ子プロジェクト」のミニマム達成をねらって、運動量の多い体育の授業を実践していく。	B 【達成状況】児童肯定的回答 87.7% ・1では、個人の目標を設定し、運動への意欲を高めることができた。 ・2では、投力向上を図るため、ポーテックスを取り入れたり、検定表を用いて水泳や縄跳びに取り組みせたりすることで、運動に親しむことができた。 【次年度の方針】 ・1では、目標に向けて休み時間に積極的に外に出て体を動かすよう、共遊の時間を作ったり、声掛けをしたりする。 ・2では、運動量を高めるため、発達段階に応じた運動についての情報を交換し合うなど、指導法の工夫を図る。
	A 14 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は好き嫌いなく給食を食べている。」児童肯定的回答 80%以上	コミュニケーションを通した食の大切さを啓発する。 1 各種たよりやお弁当の日などを通して、栄養や食材について話し合う機会を設ける。 2 懇談会、各種会合等を通し、食や生活習慣へのかかわり方の大切さを啓発したり、栄養士と連携を図った授業を工夫したりする。	B 【達成状況】児童肯定的回答 76.6% ・1では、食育だよりを発行したり、家庭でお弁当の準備をしたりして、食に対する関心が高まった。 ・2では、家庭科および学級活動の授業において食育を行った。 【次年度の方針】 ・1では、各種たよりや食に関するアンケートを通して、児童の給食の現状を知らせるとともに、食育の大切さを啓発する。 ・2では、引き続き栄養士と連携した授業を行ったり、学校保健給食委員会の推進を図ったりする。また、各学級で食育の徹底を図る。

	B3 児童は、自分の体を大切にし、健康に気を付けて生活しようとしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、遊びや下校後うがい、手洗いをしたり、けがをしないよう気を付けたりしている。」 児童肯定的回答 80%以上	自分の体は自分で守ることの大切さを指導する。 1 休み時間や下校後の手洗い、うがいや衣服の調整等を指導する。 2 養護教諭と連携し、保健の授業や学級指導の授業を充実させたり、保護者等への啓発を図ったりする。 3 遊びの中で、道具や施設の使い方やきまりを指導する。	B 【達成状況】児童肯定的回答 92.3% ・1では、手洗いやうがいについては、生活目標や養護教諭、保健委員会での呼びかけを実施した。 ・2では、歯の健康教室や薬物乱用防止教室を行うことで、養護教諭と連携し、授業の充実が図られた。また、保護者へは、保健日より等で啓発を図ることができた。 ・3では、教職員が共通理解を図り、遊びの種類別にエリアを分けることで、けがの防止につながった。 【次年度の方針】 ・1では、今後も保健日よりや生活目標を活用し、手あらいやうがいの励行を継続して指導していく。 ・2では、発達段階に応じた授業を実施するとともに、学校保健給食委員会等で保護者への啓発を図る。 ・3では、各学級で学校の決まりを確認し、けがのない生活を送ることができるように指導していく。
	A15 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、進んで話し合うなど、積極的に学習している。」 児童肯定的回答 80%以上	意欲的に取り組むような発問の工夫、教材の開発、学習形態等について、教職員同士で考えを提案し、実践する。 1 個に応じた作業プリントや教材等を工夫し、意欲的に授業に取り組むことができるようにする。 2 学習形態を工夫し、互いの考えを認め、学び合いができるように努める。	B 【達成状況】児童肯定的回答 90.9% ・1では、既習内容をもとに児童の挑戦意欲を促すプリントや資料の工夫をした。 ・2では、「友達の考えを知ること」「自分の考えを発信すること」のよさや楽しさを実感できるような場面を授業の中に位置づけた。 ・1、2ともに、成果と課題について教職員で考察し、改善点を明らかにした。 【次年度の方針】 ・1では、活動時に児童が自分の目標をもち達成に向け進んで努力できるような投げかけを工夫する。 ・2では、引き続き「多方面から考える、つなげる、広げる、深める」など、児童の思考を刺激する課題の設定と支援のあり方、学習形態の工夫について、授業を検証し合い、改善を行う。
学 習	A16 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中に先生や友だちの話をよく聞くなど落ち着いて学習している。」 児童肯定的回答 80%以上	基本的な学習態度について、全職員が共通理解を図り、実践する。 1 話の聞き方・発表の仕方やノートの使い方について、指導の徹底を図る。 2 授業開始時刻を守り、学習の準備を行う等落ち着いて学習に取り組める態勢を整える。	B 【達成状況】児童肯定的回答 88.2% ・1では、「話し方・聞き方」「発言のしかた」（教室掲示）にしたがって授業中の望ましい学習態度の習慣化を図るとともに、ノートを正しく使い、丁寧に記録することを意識づけてきた。 ・2では、児童指導部と連携し「生活目標」に設定するなどして、校内同一歩調で、継続して指導にあたった。 【次年度の方針】 ・1・2ともに、引き続き、学習指導部と児童指導部が連携しながら、子どもが見通しをもち、安心して学習できるように環境を整える。

	B 4 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。 【数値目標】 全体アンケート「児童は、宿題や自主学習をすることが習慣化されている。」 児童・保護者回答 80%以上	「清原っ子家庭学習の約束」により家庭学習の習慣化を家庭と連携しながら推進する。 1 授業参観や懇談、学習だよりなどを通じて、機会あるごとに保護者へ状況を知らせる。 2 家庭学習に対して適切なコメントをする等、児童の意欲を高めるようにする。	B 【達成状況】児童肯定的回答 82.5% 保護者肯定的回答 79.7% ・1では、市のリーフレット「家庭学習のすすめ」や地域学校園の「清原っ子家庭学習の約束」により児童の意欲を喚起するとともに、学年の発達段階に応じ、保護者への理解、協力を仰いだ。 ・2では、家庭学習の提出物を通して児童への称賛、励ましを行った。宿題の提出率は高いが自主学習の習慣化には課題が見られた。 ・児童の肯定的回答率は数値的には達成したと言えるが課題は残る。保護者の肯定的回答率は目標値に達していない。 【次年度の方針】 ・1では、引き続き、保護者の理解を得ながら家庭学習の習慣化を図り、発達段階に応じて自主学習の奨励を行う。また家庭学習を通して、学校での学習内容を保護者も確認できるようにする。 ・2では、引き続き、児童にとっての目的が明確な家庭学習を設定し、実践の習慣化を図りながら定着の状況確認や児童への称賛、励ましを行う。
本校の特色・課題等	B 5 本や地域、友達とのふれあいを通して人間関係を深め、心の豊かな児童を育成している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、読み聞かせなど地域の方とふれあうことは楽しい。」 児童肯定的回答 80%以上	1 本とのふれあい：朝の読書活動を充実するとともに、調べ学習を充実したものにする。 2 地域とのふれあい：<u>あいさつ運動や地域ボランティア、体験農園活動等を通して人間関係を深める。</u> 3 人とのふれあい：縦割り班活動や学校行事等を通し、リーダーシップ、思いやり、協調性などを育てる。 4 学習ボランティアの充実により、教育活動を豊かにする。	B 【達成状況】児童肯定的回答 95.3% ・1では、朝の読書時間を確保するとともに読み聞かせボランティアや司書のブックトーク、読書まつり等充実した活動が行えた。また、調べ学習がしやすいようにコーナーを設けた。 ・2では、地域の方々と共に活動する機会を年間計画に位置付け、多くの方とふれあう活動に取り組んだ。 ・3では、縦割り活動や学校行事等で異学年との交流を積極的に行えた。 ・4では、地域人材を有効に活用し、できた喜びを味わわせることができた。 【次年度の方針】 ・1では、地域から寄贈を受けた本を有効に活用し、学年に応じて本とふれあう機会をさらに増やしていく。 ・2では、お世話になった方々への感謝の気持ちを表す感謝の会を開きお礼のお手紙を渡した、地域ふれあい給食を実施したりする中で、さらに結びつきを深めていく。 ・3では、縦割り班活動や学校行事の内容をさらに充実し、思いやりの気持ちを育てていく。 ・4では、学習ボランティアに新しい人材を加えるなどして更なる活用を推進していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】○清原地域学校園構想としての取組みを充実させ、児童の「生きる力」を育み、教員間の連携を深める。

- ・「学校は、学校だよりや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」では、概ね目標が達成されている。今後もホームページの充実など引き続き情報の発信・提供をしていく。
- 「学校は、小学生や中学生が連携した取組みを主体的に行っている」では、限定された行事ではあるが児童が新鮮な気持ちで取り組むことができた。事前の連絡なども含めて教職員間の連携もさらに深めていきたい。
- ・「私は、読み聞かせや体験活動等で地域の方とふれあいことは楽しい」では、地域の多くの方に支えられ充実した活動ができた。さらに、今年度から実施している「地域ふれあい給食」を通して地域との結びつきを深めていきたい。

【学習指導】○基礎的・基本的な学習内容の定着化を図り、更に学び合いを通して自ら学び考える児童の育成を図る。

- ・分かる授業、きめ細やかな指導、児童の学習意欲の向上など、学力向上に向けた取組についての評価指標はおおむね目標を達成している。今後も学校の取組や児童の学習状況を積極的に情報として発信し、学校と家庭との連携が効果的に学習に生きるようにしていきたい。
- 家庭学習については保護者との連携に課題が見られた。地域学校園の「清原つ子家庭学習の約束」の意識化と定着をさらに図り、保護者の理解を得ながら家庭学習を通した学習内容の確実な定着と自主的な学習の習慣化を目指す。
- ・教師の授業力向上に向けた取組については、組織的、計画的に進められていると言える。授業のねらいの明確化、楽しく分かる授業展開の工夫、友達と学び合う良さの実感、学び合いを通した思考力、判断力、表現力などの育成を目指し、授業実践や研修の充実を図っていきたい。

【児童生徒指導】○あいさつ運動を始め、児童間のコミュニケーション能力を高める活動を通して、自分で判断し行動する児童の育成に努める。

- 「児童は、進んであいさつをしている」の評価項目では、中学校との連携を図り、あいさつ運動を行ったり、児童会を中心に啓発ポスターを作成したりするなど、児童のあいさつに関する意識を高めることができた。また、地域の方に子ども達のあいさつの様子を評価していただく機会を設け、地域と連携したあいさつ運動を展開することができた。
- ・「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている」の評価項目では、児童に生活目標の振り返りをさせることで、生活の様子を児童自身が自己評価できる機会をもてるようにしたことで、児童の意識が高まってきた。登下校時の決まりや安全面での指導についても継続して指導を行っていきたい。
- 「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」の評価項目では、道徳の時間や児童会活動を通して、いじめに対する児童の意識を高めることができた。また、言葉遣いに関する学級活動を各クラスで実施するとともに、いじめアンケートやハートタイムを実施し、いじめの早期発見に努めたことにより、目標を十分に達成することができた。
- ・「全職員が子どもの人権を尊重し、法令を遵守しながら職務を遂行している」の評価項目では、教師自身の言動が児童に影響を与えることを自覚して、児童の模範となるような行動をするよう心掛けた。人権週間では、全学級でDVDを視聴し、人権意識を高める材料とし、人権教育に焦点を当てた授業を実践したことにより、児童の人権に対する意識の向上が図れた。

【健康・体力】○楽しく体力づくりができる環境や健康について、学ぶ機会を充実させ、自らの健康や体力づくりに積極的に取り組む児童の育成に努める。

- ・「児童は進んで運動する習慣を身に付けている」の評価項目では、個人の目標を設定するための検定カードやワークシート等の活用の取組により、運動への意欲を高めることができ、十分に達成できた。
- ・休み時間や放課後の運動に関する評価項目では、引き続き指導の継続を図る。
- ・「児童は栄養のバランスを考えて食事をしている」の評価項目では、お弁当の日の実施により食に対する関心が高まった。さらに食育だより等で児童の給食の実態を知らせるとともに、食の大切さについても保護者への啓発を図っていく。

6 学校関係者評価

- ・学校全体に落ち着きがあり、児童が元気で明るい。あいさつもしっかりできている。
- ・あいさつについては、地域・学校が連携して取り組むことが大切である。地域においては、初めは上手にあいさつできない児童も顔が分かるとできるようになる。よい関係を築くことが大切である。
- ・あいさつ運動の成果は、日を追うごとに上がってきている。登下校中にあいさつができる児童が増えている。またあいさつは、大きな声を出すだけでなく、互いに笑顔を見せるということも大切である。
- ・「学校だより」等によって、本校の教育活動が地域・家庭でよく理解されているようだ。今後も適切な情報発信をしていくことが大切である。
- ・子どもたちが、学校の行事を楽しんでいる。また、地域の方とのふれあう体験活動等においても、のびのびと楽しそうに活動している。今年度から始めた「地域ふれあい給食」は地域の方からも好評であった。今後も地域とのつながりを大切にしていきたい。
- ・縦割り班による様々な活動を通して、児童に思いやりの心が育ってきている。今後も特に上級生一人一人に活躍の場を与え、リーダーシップを育てていくとよい。

- ・給食の好き嫌いがあるようだが、家庭ではどうなのだろう。昔は何でも食べていたが、食生活も変わってきている。食については、家庭と連携した取り組みが必要であろう。
- ・地域においても落し物を駐在所に届ける児童が多く、社会に貢献できている。今後も、きまりやマナーを守れる児童を育てていきたい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 学校だよりや学校公開などを通して、地域に開かれた学校づくりに努めることができた。保護者や地域の方は学校を信頼し、ともに歩んで行くという意識が高く、本校の教育活動にボランティア等として積極的な支援を得ることができた。今後も学校への理解をさらに深めていただけるよう、本校教育活動の様子や児童のよさや地域・家庭と連携した活動について、積極的に情報を発信していく。
- 学習指導及び児童指導に関する教職員の取組に対して、概ね肯定的な評価がなされている。今後も明るく元気に学校生活を送れるよう、教職員が協力して指導に当たりたい。そして信頼される学校づくりに取り組んでいく。
- 学力の向上に向けて、個の学びや学び合いを充実させ、分かる授業の実践に取り組んできた。今後、新学習指導要領への移行を踏まえ、指導方法を研究し授業改善に取り組んでいく。
- 家庭学習の習慣化については、今後も「清原っ子家庭学習の約束」を活用し、家庭と連携して継続取り組んでいく。また、その際に児童が意欲的に取り組める課題設定や方法を指導したり、取組に対して助言・称賛・励まし等の支援を行いさらに意欲を高めたりする。
- いじめ対策については、未然防止・早期発見・早期解消のために学校生活アンケートやハートタイム（教育相談）を継続し、児童理解に努める。また、学校でのこれらの取組や児童会での取組（いじめゼロ集会）を児童指導だより等で積極的に発信していく。
- 学校全体に落ち着きがあり、子どもたちは明るく元気に過ごしており、時と場に応じたあいさつも身に付いてきている。これからも地域の教育力を生かしながら、保護者とのよりよいコミュニケーションを図りながら、児童指導の推進に努めていく。
- あいさつについては、校内における日常の指導をはじめ、中学校と連携した学校園あいさつ運動や、地域と連携した清原南部地区あいさつ総ぐるみ運動により、今後も意識を高めていく。
- 健康や体力に関する取組では、運動への意欲を高めるために、検定カードやワークシートの活用を工夫し、運動に親しむ環境を整えることができた。今後も、体育の授業だけではなく、休み時間や放課後等も積極的に体を動かす機会を増やしていくことができるよう、子どもの意識を高めていく。
- 食については、学校給食を通して好き嫌いなく食べる態度を育成し食育の推進を図るとともに、学校と家庭が連携し、食の大切さを十分に指導していく。